

金賞

れいちゃん、ありがとう！

株式会社デンソー 豊橋製作所 冷暖房製造 3 部 TPM 課 一般

森 恒樹

「もう、洗う方の身にもなってよ！」帰宅するやいなや、妻からの小言。結婚当初は、「れいちゃん、ただいま～」と帰宅し、妻も「お帰り～、今日もお疲れさま」と、笑顔で迎えてくれていました。それが、新婚 2 年目で...

私は、入社以来 10 年間、1 千トンを超える大型プレスや塗装装置などを有するプレス工場の保全業務を担当しています。設備のほとんどが 30 年以上も前のもので老朽化しており、慢性的な故障も多く一筋縄ではいかない厄介者です。また、私は“早く直すこと”が保全の使命と考えており、「作業服が汚れるのは当たり前！この汚れが一人前の保全マンの証」と思っていました。そんなある日、生産課からの修理依頼が...。「またか...」と思うような慢性故障で、搬送部にワークが噛み込み、ステーが変形していました。誰もが、「古いし、せまい個所で見えないから」とあきらめていました。いつものように、故障箇所へ急いで潜り、変形を修正、修理を終えた時には作業服は真っ黒になっていました。

その日の夕食時、妻から「何でこんなに汚れるの？ 掃除してないんじゃないの？」と言われ、「おまえにオレの仕事がわかるか！」と怒鳴ってしまいました。気まづくなり、ベランダでタバコを吸っていると、ふと妻の洗濯している姿が目につきました。私が「洗濯機で洗えば？」と言っても、妻は風呂の残り湯での手洗いを絶対にやめませんでした。いつもきれいな私の作業服。それは、妻が「気持ちよく仕事をしてほしい」と、洗濯機では落ちない汚れを自らの手できれいにしてくれていたからです。そんな妻の想いにも気付かず、掃除はいつも他人任せ、すべて自分中心で誰かのためと思ったことはありませんでした。「妻の想いに応え、設備にも気持ちよく仕事をしてもらおう！」と、翌日からまず清掃をすることにしました。

汚れの原因は油漏れで、拭いても拭いてもすぐ汚れてしまい、「本当に設備のためになるのか？」と何度もくじけそうになりましたが、必死に取り組みました。そんな私の姿に、生産課の加地チームリーダーが「最近どうした？」と声をかけてきました。妻とのできごとを話すと、「こんな服、オレの娘に洗わせたくないな～」と手伝ってくれるようになり、数日後には保全や生産課のみんなが参画してくれました。生産課を巻き込んだ二人三脚の活動がスタートしたのです。

そんなある日、期間従業員の A 君が「何か光っとる気が...」と言っています。その光をたどっていくと、慢性故障のワークが噛み込む部位で、油圧シリンダーのロッド部からわずかに油が漏れていたのです。さっそく、シリンダーを分解すると、パッキンに亀裂が入っていました。この亀裂から油が漏れ、シリンダーの速度がバラつき、動作タイミングがずれてワークを噛み込んでいたのです。今まで、慢性故障とあきらめていたものが、一滴の光により原因をつかむことができ、真因追究と同時にシリンダーのロッド部に異物侵入防止のダストシールを追加し、再発防止

も実施しました。この体験により、どんなに古い設備でも思いやる気持が一番大切、設備もそれに応えてくれることを知りました。そして、みんなが今まで以上に設備を思いやるようになったおかげで、これまで油で見えなかったものが観え、騒音で聞こえなかった設備の訴えが聴こえるようになり、予防保全や改善活動も活性化しました。さらに、生産課の自主保全件数も大幅に増加し、設備の故障件数・停止時間も激減しました。無停止時間の記録も更新中です。

私は、今まで“早く直すこと”が保全の使命と考えてやってきました。しかし、清掃に取り組むようになり異常の原因が観え、真因追究により再発防止をすることができました。妻の一言によって、真因追究の大切さを知り、本当の意味での保全の使命を知ることができました。“再発防止はPMの原点である”ということをして！

最近では、妻が笑顔で私を迎えてくれ、作業服を見て「本当に仕事しているの？」と言われるくらいで、仕事も私生活も充実しています。

「れいちゃん、ありがとう。これからもよろしくね！」